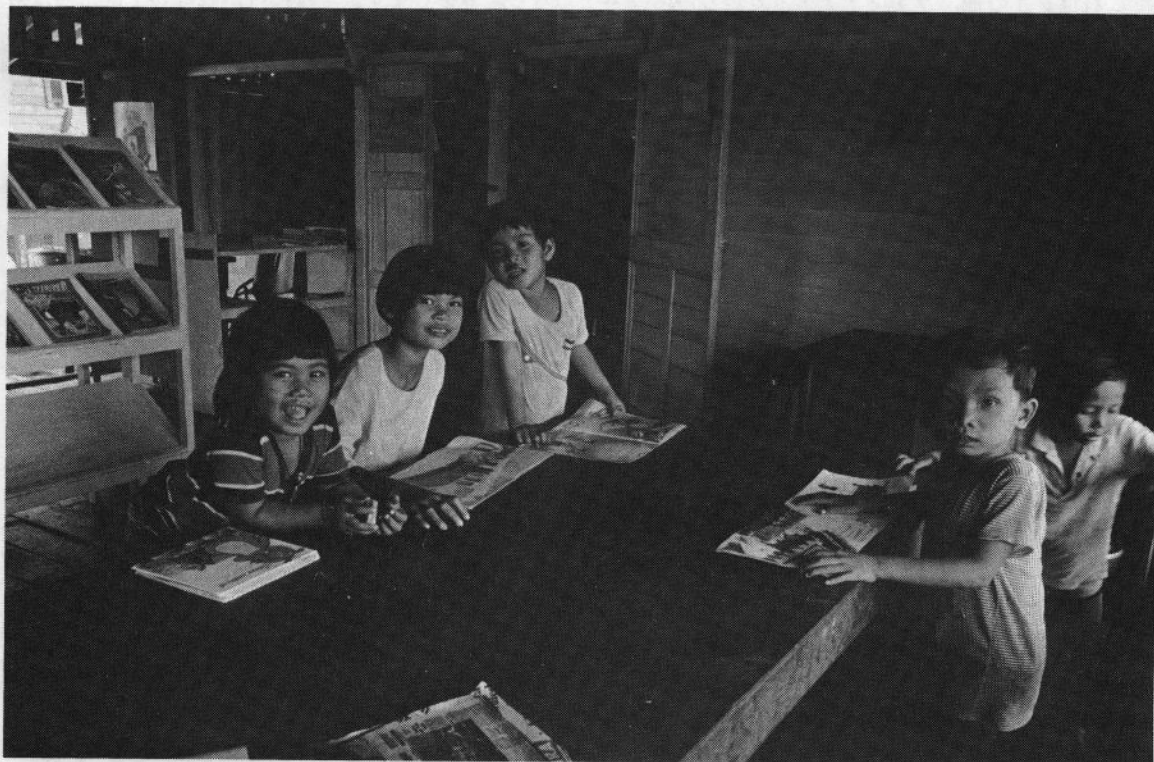


難民救援情報誌

Trial & Error No.25

トライアル・アンド・エラー

—— 試 行 錯 誤 ——



クロントイ・スラムのJVCの図書館にて 撮影・福村

スラムの人々とともに

福村州馬

クロントイスラムでの活動は難民ではなくタイ人を対象にした活動です。第三世界の貧困を考えるとこのような難しい理由ではなく、先ず身近にいるスラムの人たちの生活を何とかしたいという気持ちが私をこうした活動に駆りたてたわけですが、今頃になってやっと、農村問題やスラム問題を原点とした貧困問題を考える時期にはいつてきたと思われるのです。

タイの総人口は約5000万、首都バンコクは人口500万の近代都市です。そのバンコクには439ヶ所のスラム街があり、その中で東南アジア第2番目に大きいといわれるクロントイ・スラムに80年4月から入り現在に至りました。

クロントイには7000世帯～8000世帯、人口にして約4万人の人が住んでいるといわれています。現在私たちが住んでいるスラムは、12の区に分かれているうちの一番大きい地区なのですが、約1200家族が住んでいます。

スラムをとり巻く最大の問題は、もちろん構造的貧困にありますが、立退き及び教育なども大きな問題になっています。

もともとスラムの住民は、戸籍もなく無許可で居住しているため、常に当局の立退き命令に脅かされていましたが、7月のはじめに解決がついて、立退きはしなくても良いことになりました。今後のスラム政策に大きな影響を及ぼすことになると思います。

現在のタイにおいては、非常に温健な手段をとろうとしているんですね。

立退きに次いで人々が恐れているのは火事です。一軒一軒が近接しているのですぐに大火事になってしまうのです。火事の原因は、主に放火で、土地の所有者が人を雇って火事にし、立退かせるのです。

これはタイの他、ラテン・アメリカ辺りのスラムでも使われる常套手段です。

クロントイは港湾局の土地の中に建っており、スラムの奥の方は湿地帯になっています。家と家をつなぐ通路は板ぎれで作られているものが多く、クロントイにはいつから、最初の仕事はその通路の補修、特に幼稚園につなぐ通路の補修でした。

家も板キレやボール紙などでつくられており、地盤のしっかりしていない湿地帯の上に建っています。

開発と貧困

ご存知の通り、基本的にはタイは農業国です。第二次大戦後、開発活動は急速に進んできましたが、農村の開発はとり残されています。農村の近代化はアジア全体でも私の住むタイでも非常に遅れているのです。貧しいものはどんどん貧しくなり、栄養失調、教育を受けられない子供たちの問題をひき起こしています。14、15才の娘が、バンコクからくる人買いに買われ、売春することになったりします。また子供たちが、タコ部屋のような、せまい所に閉じこめられて、苛酷な労働条件のもと、工場などで働かされています。

洪水、かんばつなどで、農村に暮らすことは増々困難になっています。洪水の場合は、森林伐採のせいもあって、天災というよりも人災といった方が良いかも知れません。ところで日本は東南アジアから大量の木材を輸入しているのです。

農村の人たちは都市へと流れていきますが、結局は喰いつめてスラムに流れついてしまうのが現状です。そこで、スラムの人たちは、いつも半失業状態に悩まされています。

低賃金労働にあえぐ

農村から都会にでてくる人たちは、特別、教育を受けたわけではないので、肉体労働に、特に港湾局の仕事に雇われるケースが主です。基本的な最低賃金64฿≒640円は守られていなくて、日本円で500円とか400円とかが平均的です。スラムの主婦たちは、ビニール袋を再生するため拾ってきて、それを

洗って干して、きれいにしてから一キロいくらかで売るといふアルバイトをしています。つまりほとんどが、単純肉体労働なわけです。

子供たちの仕事は、屠殺場から流れてくる脂肪の固まりを棒で拾ってきて集めたものを売ったり、路上での花売り、新聞売り、乗り合いバスの車掌などです。彼らは両親が働きに行っているの、自分たちで家事をします。学校に行かれない子供たちは弟や妹の世話をしています。学校には行かなくても日本の子供たちより経済観念はしっかりしていると思います。ただ、不安感からか、子供のうちからヘロイン中毒になる者もごくわずかですが居ます。

麻薬中毒といった点では、バングラデシュ、インド、ネパールなどに比べると少しはましだということですが。

精神的自立のために

私たちは現在①図書館運営②奨学金援助③電気工養成所、という三つのプロジェクトを行なっています。図書館運営というので、学校に行けず文盲である子供たちに絵本というのは、少し変にみえるかもしれませんが、美しい絵本を見ることによって子供たちの情操や興味をひきだすことができるのではない、という理由から始まったものです。JVCは1981年2月から6ヶ月かかって図書館を作りました。今、オープンしてから一年半になります。クロントイ図書館と名付け、まだ非常に少数ではありますが約1000冊の絵本があります。

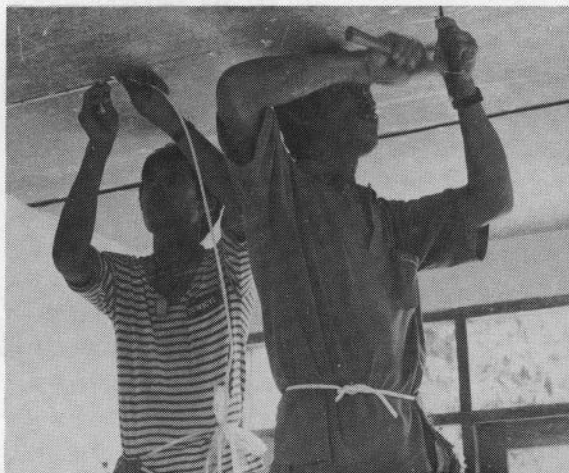
奨学金援助では、70名の子供たちに小学校6年までの教育援助を行なっています。義務教育なので授業料はタダですが、制服、教科書代が必要です。資金援助はそのためのものです。

教育援助を受けられる子供の基準は、一つは家庭が貧困であること、二つめには高学年で本人に勉強の意志があると判断できることです。これは私たちが、一軒ずつ家庭訪問して判断しています。奨学金は普通成績が良いことが必須条件ですが、ここでは成績はその範中に入れていません。スラムの環境の中にあって、良い成績をとるということはある程度無理な要求とも思われますから。学校に行ける子供と他の40%の子供の表情には違いができています。

電気工養成所の経営については、2年前に始めたのですが、貧困が原因でアルコール中毒、家庭の不和につながる人が多いので、精神的自立援助のためにも技術を身につけることが必要になってくると思えるのです。今、6回目の開講中ですが5回まで

に約60名の卒業生をだしています。技術を身につけた卒業生は、電気工事を近所の人から頼まれたり、地方へ仕事を見つけることもできるのです。又、彼らを中心として1月15日から電気屋さんを開いています。これには電気屋さんであがった利潤を学校経

営に回すことと、スラムの人たちに便利な生活をしてもらうことの二つの目的があります。二年後にはJVCは手をひいて、現地の人たちが、運営していくようになることが理想です。



電気工養成所の実習



奨学金援助を受けている生徒とその家族

何か質問があればどうぞ。

Q：スラム全体としての自治組織はあるのですか。

A：クロントイのケースしか知りませんが、私達のいる12区には住民委員会というのがあります。

彼らは住民に選挙され、一年任期でやっています。この住民委員会の中からプラティーブ財団が生まれ育ってきたので、他のスラムの人達にとってもこの財団はひとつの象徴なんです。プラティーブ財団は今6つか7つのスラムで活動しています。

Q：そうした貧困問題についてJVCとしては、今後どのように取り組んでゆくのですか？

A：JVCとしてではなく、個人的な考え方です。タイの民間団体や、農村問題に関心のある団体に対して、横のつながりをもって何かの援助をしたいと考えています。二つめはタイ国に対する援助の仕方を民間団体の特性を生かして具体的な案をたて、アプローチする。つまり、従来の援助政策を問いなおすということです。

Q：バングラデッシュでは、女性の身分がとても低いのですが、タイではどうですか。

A：特にスラムにおいては、女性の活躍に目ざましいものがある、女性差別ということはあまりないと思います。電気工養成所にも女性は居ますし、男女関係なく生徒を募っています。

Q：スラムは今後どうなっていくのですか。

A：スラムについてのレポートなどを読んでも、こうしたスラムの形を残して、今の状況を改善していく方法をとろうとしているようです。シンガポールのようにアパートに住民を移動して住ませる方法はタイではもうとられないと思います。彼らをアパートに住ませても、部屋代が払えずに、又、別のスラムに移っていくという以外にはなくなる。ということが、だんだんにわかってきたという状況でしょうか。クロントイ・スラムは、プラティーブ財団によって世間の注目を集めるようになりました。世界のスラム問題に興味を示す目は、クロントイの今後を見つめていますから、政府もやたらに無謀な事をできなくなっています。クロントイは、現在、実験的な存在といえると思います。

タイでは、開発に使われるお金のうち20%は農村開発にあてられているのですが、農民のために20%がそのまま使われることはなく、道路建設、ダム建設に使われているようです。いちばん困っている農民のためでなく、例えば、道路を走る車をもっている人のための道路建設であったりすることが、まだまだ多いのです。

ふくむら・しゅうま：1980年4月よりクロントイ在住、32才。

※1983年2月25日、山手YMCA・東京高田馬場で行なわれた講演をもとにしました。(編集部)

レバノン被災民調査報告—— 1 竹内俊之

レバノン

レバノンは約300万の人口で南北に約200km、東西約50kmの帯状の国土を有し、ほぼ岐阜県と同じ位の広さである。西は地中海に面し南はイスラエル、東と北はシリアに接している。二本の山脈が平行に国土を貫き、その谷間に肥沃なベカー高原がひろがっている。300万の人口には100万と言われるパレスチナ人、シリア人、クルド人の難民や移民の数が含まれている。

レバノンには約17の宗派があり1932年に行なった国勢調査を基にして各宗派に政府内部のポストがふり分けられている。宗派別に人為的に作られたたて割り社会の矛盾は、1958年と1975年の2度の内戦において顕在化した。1978年のイスラエルによる大規模な侵攻作戦の後、イスラエルの肝入りにより元レバノン軍のサード・ハダド少佐は、南部国境地帯を「自由レバノン」として分離独立を一方的に宣した。

この時期を通じてレバノン中央政府は確実にその権威と実効支配力を失なっていく、国土の大部分は各派の武装勢力によって支配されるようになった。

レバノンはその国内総生産の大半を金融と商業を中心としたサービス部門によっていた。しかし1960年も後半になると他のアラブ諸国はヨーロッパやアメリカと直接取り引きを行なうようになりベイルートの繁栄もかげりを帯びて来た。またその頃から政情が不安定となり商業活動も衰退し観光による収入も年々減少していった。このような状況に加え今回のイスラエルによる侵攻とひきつづく占領状態は、レバノン経済に深刻な影響を与えている。

'82年末、ダマスカスからレバノン国内に入り約1ヶ月間調査を行った。

ひとくちにレバノン被災民といっても、レバノン人だけではなく、すでにそこに難民として暮らしていたパレスチナ人もいれば、他のアラブ諸国から出稼ぎに来ているアラブ人もいる。ここでは1982年6月からのイスラエルによるレバノン侵攻作戦によって被害を受けた、これらすべての人々をさす。その数は'82年6月の時点で10万~30万人と推定された。確認されたものだけで、17,825名が死亡(ベイルートとその近郊で5,515名)、30,103名が負傷(ベイルートとその近郊で11,139名)、1,800名が手足を切断した。約60,000人が家を追われ、レバノンの人口の3分の1以上がイスラエルの占領下に入った(レバノン政府発表)。その他今だに多くの人々が死体となつてがれきの下に埋っており、行方不明者の数は把握すらされていない。

この緊急事態に対してICRC(赤十字国際委員会)を中心とした、国際機関、〔UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)、UNICEF(国連児童救済基金)、UNDRO(国連災害救済調整官事務所)、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)〕はもとより、数多くの国外およびレバノン国内の民間団体が救援活動を行った。

レバノン国内は緊急状態から脱しているように思われた。しかし一部の地域すなわち、イスラエル占領下の南部レバノンとベイルートのパレスチナ難民キャンプでは、住民たちがなお不安と恐怖の中で暮らしていた。イスラエルによる南部の占領状態とそれに対するレジスタンス活動、様々な武装勢力間の衝突、レバノン正規軍とアラブ平和維持軍との戦闘、爆発物によるテロ行為、政治的な暗殺などは、ベカー高原、レバノン南部はもとよりベイルート市内でも頻発している状況である。

私がベイルートを訪れたときも、北の港町トリポリでの親シリア派住民と反シリア派住民の1ヶ月にわたる戦闘(死者215名、負傷者611名)がようやく収束に向った時であった。



レバノン南部の町スールにて

難民キャンプの状況

レバノンには'82年6月現在、347,100名のパレスチナ人がいる。そのうちの約半数にあたる123,422名がUNRWAの管轄する12ヶ所のキャンプに居住している。UNRWAに難民として登録されている数は、23,866名である。UNRWAのキャンプ以外にも同じような条件下のパレスチナ人居住区がいくつかある。これらのキャンプにはパレスチナ難民ばかりでなく、レバノン人の下層階級に属する人々や、他のアラブ諸国から出稼ぎにきている人々も居住している。ベイルートにある難民キャンプは、それ自体スラムの様相を呈している。

南部レバノンでは、歴史的に貧しい地方であることが、南部レバノンの人々とパレスチナ難民のおかれていた状況を似かよったものとしている。このことは人々の間に、パレスチナ難民に対し同情的な傾向を生み出している。

多くの難民キャンプは、1948年の第一次中東戦争、イスラエル「独立」によって土地を追われたパレスチナ難民によって形成された。そして戦争が勃発するたびごとに、その人口は増えていった。親戚や知人を頼って流れ込んだ難民達は、小さな部屋に身を寄せ合って生活することを余儀なくされた。上下水道の不備あるいは破壊によって、安全な水が確保されず、慢性的な皮膚病や眼病の原因となっている。また伝染病発生の危険も高い。

今回の調査ではベイルートにある、サブラ、シャティーラ両難民キャンプと、ブルジバラジネ・キャンプに入ることができた。サブラ・キャンプはUNRWAに認可されていない。これらのキャンプは、今回の戦争によって60～80%が破壊されたと言われている。

サブラ、シャティーラの2つのキャンプは、ベイルート市内の南に位置している。この周辺はPLOの中枢部があったところで、集中的な爆撃を受け今でもその傷あとが生々しく残っている。昨年9月に世界を震撼させた大虐殺の舞台となったこの両キャンプでは、人々は今だに同じことが起こるのではないかと怯えながら生活している。今でもパレスチナ人の男性が理由を告げられることなく、レバノン軍によって逮捕されている。一度引き揚げた国際監視軍が、虐殺が起きた後にもどっているため、いくらかの歯止めにはなっているのかも知れない。しかしPLO（パレスチナ解放戦線）のベイルート撤退によって拠りどころを失った彼らが



パレスチナ難民問題

ヨーロッパ、ロシアでは19世紀末からユダヤ人に対する差別、抑圧の嵐が吹きあれ、その中でユダヤ人のシオニズム運動が形成された。シオニズム運動とは、聖書に示されている「シオンの丘」のあるパレスチナ（2千年前にユダヤ人の国があった）へ帰還しようとするもので、現象的にはイスラエルの建国運動として現われている。

第一次大戦後、当時オスマン・トルコ領であったパレスチナはイギリスの委任統治領となった。イギリスはシオニズム運動に対し、パレスチナにおける「民族郷土」の建設というあいまいな表現（バルフォア宣言）で支持した。

「ある国（イギリス）が第二の国民（ユダヤ人）に第三の国民の国土（パレスチナ）を与える」という事態は、現在の国際法の通念では考えられないことで、当時の帝国主義的な歴史風土を反映している。

1933年のナチスドイツのユダヤ人排外政策によってシオニズム運動——パレスチナへのユダヤ人移民は飛躍的に増大した。そのためパレスチナ人住民との紛争が多発した。処置に窮したイギリスは、当時成立間もない国際連合にこの問題を委ねた。1947年国連はパレスチナ分割勧告案を可決した。アメリカを中心とするシオニストの圧力によって、アラブ住民の意向は無視され、パレスチナはイスラエルとアラブ国家に分割された。この決議は「平等の権利と民族自決」をうたう国連憲章に反するものであった。1948年5月イスラエルは一方的に独立を宣言して、第1次中東戦争が勃発した。その結果イスラエルは割り当てられた以上の領土を獲得し、100万人のパレスチナ人が難民となった。

中東戦争はその後3回起きたが、その度毎にイスラエルは占領地を拡げ、アラブ諸国には多くの難民が流れこんだ。

安心して生活できる状態ではない。

このような状況は南部レバノンではもっと尖鋭化している。多くのパレスチナ人男性（13～60才）が行方不明となっている。イスラエルがアンサールに設置した捕虜収容所には5,500人のパレスチナ人が収容されており、そのうち70～90人はUNRWAの職員だという。

サブラを訪れたのは1月の冷たい雨が降り続く曇天の日だった。私はある人の紹介でシハームという女性に会うことができた。彼女はパレスチナ婦人同盟のサブラ地区代表であった。同婦人同盟はPLOがベイルートでまだ活発に活動していた時には、保育所や婦女子の技術訓練（タイプ、裁縫）、識字教育等を行っていたが、今は活動が中断されている。リビアで国際的な差別撤廃運動の団体に働いていたという彼女は、サブラ・キャンプでの福祉活動を中心に進めて来たこともあって、この人々が頻繁に助けを求めて相談にやってくる。しかし多くの問題は、もはや彼女の力ではどうにもならないものだ。

レバノンのパレスチナ難民が直面している問題のひとつに収入源の喪失がある。今回のイスラエル侵攻に対して多くのパレスチナ人の男性が闘ったが、ある者は捕虜となり、ある者はPLOと共にベイルートから出て行き、またある者は家族と別れベカー、トリポリ、シリアへと逃がれていった。そのような形で一家を支える男手を取られてしまったのは残された家族は生計を立てることができない。シハームによればイスラエルは捕えたパレスチナ人が戸主だと分れば絶対に釈放しないという。

もともとパレスチナ人の就職の機会は限られており、私企業では職員の25%以上のパレスチナ人を雇用できないというような制限があった。今回の戦争の後では、さらに仕事に就くことが難しくなっている。

1975年以来戦乱が続いているレバノンでは、難民に限らず母子家庭が多い。特にイスラム教の女性に対する伝統的な規制が災いして、一般的に女性の教育水準が低く、職業に就くことをさらに難しくしている。

レバノンの難民キャンプはほとんどがベイルートと南部レバノンの3つの都市（サイダ、スール、ナパティエ）とその郊外に集まっている。パレスチナ人の多いこれらの地域は、カイロ協定（'69年にレバノン政府とPLOの間で取り交わされた秘密協定で、パレスチナ人に対して「武装闘争を含むパレスチナ革命」への参加を保証している。）との関係もあって、'75年からのレバノンの内戦以来、紛争状態が続いた。さらに'78年のイスラエルの侵攻とそれに続く、ハダト少佐による「自由レバノン」の成立、PLO活動などのため、レバノン中央政府の権限が及びにくい状況が続いていた。それは同時に福祉のサービスが行き届かないということの意味する。公立の病院もあることはあるが、多くの場合正常に機能していない。このような状況の中で住民たちは、低料金で診察してもらえるパレスチナ赤新月社（PRCS）やUNRWA、あるいは民間ボランティア団体の診療所や病院を利用していた。今回の戦争によってPRCSやUNRWAの施設はほとんど破壊され、修復も進んでいない。南部レバノンの医療活動は民間のボランティア団体に大きく依存している。



パレスチナ解放勢力のスローガン、ブルジバラージネにて

PLO・パレスチナ解放機構

（Plestine Liberation Organization）

PLOは1950年代、アラブに吹きあれた民族主義運動の嵐の後1964年に成立した。初期のPLOはアラブ諸国への依存度が大きく独自の運動を展開するに至らなかった。

第三次中東戦争（1967、6月）のアラブ側の敗北は、PLOをして他のアラブ諸国への依存をたち切り、独自の闘争の重要性を自覚させた。1969年PLOを構成する諸勢力中最大のファタハを率いるアラファトが議長として就任しイスラエル占領地中での抵抗運動が活発化していった。

一連のハイジャック作戦はその過激な性格上内部にも批判が起きたが、世界の大半の人々はこの時点で、パレスチナ人とパレスチナ問題の存在に初めて注意を払った。

第四次中東戦争でのアラブ世界の自信の回復は第三世界の中でのPLOの地位の向上と相まってパレスチナ解放闘争に新しい局面を開いた。1974年11月、アラファト議長は、国連総会で演説を行ない、同総会ではPLOをパレスチナ人の唯一正当な代表と認め同人民の自決権を承認した。（決議 3236）

1982年のイスラエルのレバノン侵攻によって、ベイルートを追われたPLOはその政治的拠点をチュニジアのチュニス、軍事的拠点をシリアのダマスカスに置いていられると言われている。

JVCプロジェクト

1983年3月31日現在

活動地名	活動内容	出資団体	担当者
カオイダン	自動車整備学校 2月9日および16日より新しいコースを開始した。現在の生徒数617名。大阪の大池小学校PTAから贈られた蚊帳を、レッド・バーナ(ノルウェーの団体)を通じてキャンプの人々に配布した。	UNHCR 千葉県 ロータリー クラブ	嶋 紀晶※ 清水 洋子 田原 勝幸 松本 一仁 トンディ ソムウェツ
タイ・カンボジア 国境	医療プロジェクト 2月は、ノンチャン難民村へのベトナム軍侵攻という軍事的緊張の中でしばしばスケジュールの変更を余儀なくされた。2月中旬にレントゲン撮影を行った患者数は107人であった。内訳は、結核の患者やその疑いのあるもの21人、結核の治療状況を見るもの42人。砲弾、地雷による外傷13人、その他31人。 ナムユン難民村・補助食供給プロジェクト 補助食供給センター(以下SFセンターと略す)で、デモンストレーションを行い、先に選出したカンボジア人のアシスタントたちに仕事内容を把握してもらった。そのため2月14日からの初仕事も順調であった。対象となる、妊産婦、乳幼児約300人のうち、SFセンターへやってくる人数が減少してきている。原因は難民村からSFセンターまで山道を50分も歩かなければならない事にある。近道をつくることになったが、SFセンターを併設されているモナコの診療所と共に、難民村近くへ移動する事をWFPに提案している。難民村ではマラリアの罹患率が25%で、雨期に入るとさらに増える予想される。	日本青年 会議所 W F P 西本願寺 W F P	柳 茂行 灰塚省二郎 臼井 義人 金子 一弘 大野 直樹※ ジュタワン イサラック チャイサック トンチャック
タイ 農村	給水プロジェクト(東北タイ農村での井戸掘り、貯水タンクづくり) 農村プロジェクト タイのラムカムヘン大学の学生グループの農村開発活動に、4月10日～25日(北タイ部)、4月7日～15日(山岳民族部)各3人ずつが参加する。	モラロジー 一般寄付	木村 信夫※ スラボン ルーチャイ 横井 完治 佐藤 正喜 石丸 寧
タ ケ オ (カンボジア国内)	井戸掘り	OXFAM モラロジー	養田 健一※
ホーキンスロード (シンガポール、ベトナム人キャンプ)	管理運営、環境整備・公衆衛生(3月末をもって終了)	UNHCR	マリーマリティヌ ・キャマル※

活動地名	活動内容	出資団体	担当者
パナニコム (第三国定住待ちの人々のための一時収容施設)	日本語学校(日本定住希望者のための日本語教育) 87名で始まった第6期生は、すでに日本へ定住した人、他国へ希望を変更していった人などがあり、51名で終了した。2月15日より第7期生108名で開講し、毎日勉強に励んでいる。午前中は初心者クラス午後は既習者クラスである。	千葉県 天理教	谷沢 一江※ 佐藤 和美 清水 宏 佐久間正一 ティアン
クロントイ・スラム	電気工養成 第6期生10人が勉強中。タイ人の先生と助手の各1名が指導する。 電気工研修所(電気店) クロントイ市場の中に、研修所が開店して2ヶ月。今までに修理したものは、扇風機、電気炊飯器、アイロン、ドライヤー、プラグなど、電気工養成所の終了生2人が店に出ている。 奨学金援助 5月の新学期から新しい児童に援助が開始できるよう資金を集めている。現在約70名が年間1200パーツ(12,000円)の援助を受けている。 図書館 タイ人女性2人が図書館員として働いている。図書は、大人用約900冊、子供用約300冊で、1日20～30人の利用者のうち、半数以上が子供達。利用者の要望を取り入れて新聞を置いている。	神奈川県 モラロジー	福村 州馬※ 高塚 政生 小川ひとみ 釘村千夜子 イム スアンダビー サムルアイ
御 所 (奈良県)	日本語学校(一時滞在ベトナム難民の日本定住援助) 生徒60名のうち大人36名を2クラス、子供9名を1クラスの3クラス編成とした。学齢期に達しない15名は保育クラスとして、授業の時間中、教会の主婦ボランティアに世話を頼んでいる。1日5時間の日本語の授業と、クラブ活動1時間行っている。日本語のテキストは「日本語入門」(難民事業本部発行)を採用、補助教材として「にほんご」(JVC発行、平賀増美編)を使用している。その他2月中には節分、遠足、ベトナムの新年を祝う会などの行事を行った。	UNHCR カリタス・ ジャパン	平賀 増美※ 伊藤千鶴子 大貫 玲子
	担 当 者	出資団体	
バンコク事務所	熊岡路矢※、深津高子、武田恵治、ポンピモン、峰野美智子、森本喜久男、カモン、エディッサ、竹内俊之、上田晨子、磯村美智子、吉川万里子、木上伴子、金子雅子、碓知子、岡崎律子	裏千家 西本願寺 全社協 一般寄付	
東京事務所	星野昌子※、田島 誠、荻野美智子、鴛田三芳、本橋 栄 柴田久史、他約20名		
京都連絡事務所	永井聖子※、他約6名	支持会費 バザー売上	

※はリーダー

JVCの活動は、みなさまからの募金で支えられています

難民救援活動をより充実したものにするため、以下の募金を受け付けています。ご協力をお願いいたします。

●インドシナ難民救援募金（2月小計 308,605円）

東京事務所を窓口にしてバンコクに送られ、各難民キャンプでのプロジェクト費にあてられています。

●ボランティア募金（2月小計 28,558円）

現地で活動しているボランティアのための栄養および健康管理費にあてられます。

●クロントイ・スラム募金（2月小計 16,022円）

バンコク、クロントイ・スラム内の図書館および電気工養成訓練所の運営費などにあてられます。

●デッグ・スラム奨学金（スラム児童奨学金）

バンコク市内スラムの児童への奨学金などの学費援助、一口いくらでも可。（2月小計 61,500円）

●JVC運営経費募金

事務経費、人件費、通信費等、JVCの仕事を進めて行く上で欠くことのできない資金が慢性的に赤字となっています。

●レバノン難民救援募金（2月小計 3,000円）

●日本語家庭教師募金

昨年10月東京の有志によって始められた、定住難民のための日本語家庭教師の輪が広がっています。定住者の家庭は遠いところが多く、交通費が負担となっています。また日本語教材も充実させたいと考えています。

●医療募金

緊急医療活動のための資金となります。

郵便口座：東京 7-96238

加入者名：JVC東京事務所医療募金係

送金方法

住所、氏名、募金種目名を必ず明記の上、下記の郵便口座にお振り込みください。

口座番号：東京 9-27495

加入者名：JVC東京事務所

※ 会計の都合上、「Trial & Error」の購読申し込みとは別にご送金くださるようお願いいたします。

JVCでは

●レバノンへ医療スタッフ派遣

現在JVCは、レバノン被災民の調査にもとづき医療スタッフ（医師、看護婦、検査技師、身体障害者のための療法士など）を現地の民間救援団体に派遣するための準備を進めている。現地で働くボランティアとその派遣費を募っている。

（募金は「レバノン募金」へ）

●ソマリアで農業プロジェクト立案・準備中

3月中旬ソマリアへ調査に向った2人から、Telexが届いた。少なくとも65万人と言われるエチオピアからの難民の存在は、ただでさえ貧しいソマリアにとって過重な負担となっており、難民の自立のための援助が大きな課題となっている。

JVCは、農業分野における自立促進のプロジェクト計画を作成し、UNHCRに対し予算申請を行ったとのことである。今年7月から1年間の計画で、ケド地区のマガンセイ・キャンプの難民約100家族（800名）について、ポンプによって灌漑された耕地を改善する。人員は、農業技術者1～2名、機械整備士1名、コーディネーター（モガディシュ1名－現場1名）を予定している。

編集後記

タイ・カンボジア国境でも砲声がとどろき、難民たちのことが案じられるが、レバノンでも緊張状態が続いている。レバノンの被災民や、パレスチナ難民については政治的な問題として論議されることが多い。どういう状況にあっても、そこで多くの難民が窮境におかれているとき、人道的な立場で難民救援に関わるものとして、無関心ではいられない。次号では、レバノンで救援活動に関わる、国際機関および内外の民間団体の活動が報告される。

ファインダー

裏表紙撮影 竹内俊之

ベイルートの南、ブルジ・バラージネ・キャンプにて。国際空港の近くにあるこのキャンプはイスラエルのベイルート侵攻の際には激しい砲撃にさらされ、クラスター爆弾（親子爆弾）やリン爆弾によって甚大な被害を受けた。

JVCとは

Japanese Volunteer Center は1980年2月、タイの首都バンコクで設立された民間救援団体です。

1979年の暮れの、インドシナ難民の大量流出をきっかけに、日本から救援に駆けつけた若者と、現地タイですでに活動を始めていた日本人たちが一体となり、現在の組織の原形ができあがりました。

当初はタイ・カンボジア国境への物資輸送など、欧米の民間救援団体を補佐するものでしたが、現在は日本から寄せられる寄付金と各支援団体の援助金により、独自のプロジェクトを展開しています。

JVCは、難民、そしてそれと同様の窮境にある人々に対し、できる限りの援助を継続的に行うことを目指しています。常時50人近くの各国のボランティアが、タイ国内のラオス・ベトナム・カンボジア難民キャンプや、バンコクのスラム街において活動を続けています。

また'82年に入ってから、タイのみならず、カンボジア国内での井戸掘りやシンガポールでの活動を始めました。

東京事務所は、こうした活動の情報、人材、資金を現地と結ぶ日本の窓口として機能しています。



発行所 JVC東京事務所
〒166 東京都杉並区阿佐谷南
1-1-5 三笠ビル3F
最寄駅 丸の内線新高円寺駅
TEL 03(316)3253

バンコク事務所 Japanese Volunteer Center
67 South Sathorn Road
Bangkok, Thailand
TEL 286-4857

京都連絡事務所 京都市上京区寺町今出川角
光月堂2F TEL075(256)1382
〈海外ボランティア情報センター内〉

昭和58年4月20日発行
毎月20日発行

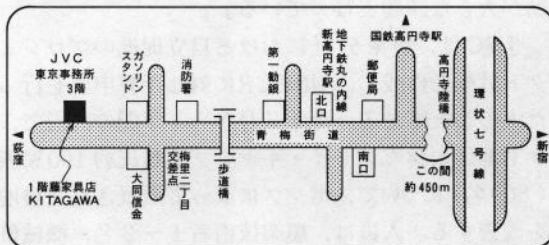
発行人 星野昌子
編集人 本橋 栄

印刷所 ㈱ベスト・プリンティング

「Trial & Error」年間購読申し込み方法

一般購読者 1口 3,000円(1冊送付)
賛助購読者 1口 10,000円(4冊送付)
郵便口座番号 東京3-54186
加入者名 JVC東京事務所
住所、氏名、購読開始月をお書き添え下さい。

Trial & Error は、季刊(年4回)の特集号と、年8回のニュースレターをお届けすることになりました。年間3,000円の購読料は従来通りです。



ニュース・レター

定価 送料共 200円